



信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 [サイロ] CONTENTS

3年前、本学の理事（研究、産学官・社会連携担当）・副学長に就任した際、「研究力のワンランクアップ」、「イノベーター的な研究の推進」、「産学官・社会連携の強化」の3つの目標を掲げました。お陰さまで、本学はこの間、トップ10%論文数と国際共著論文数の高水準の維持、さらには「アジアのイノベーターな大学トップ75」への3年連続ランクインを果たしています。また、この間、地域イノベーションエコシステム形成プログラムと産学共創プラットフォーム共同推進プログラムに採択され、本学のプレゼンスを高めることができました。地（知）の拠点整備事業「信州アカデミア」でS評価を得たことも大きな誇りです。今年度も新たに100年企業創出プログラムとユニバーサルリズム推進人材育成事業が活動を開始しました。遅ればせながら、関係の皆様方に深い敬意と感謝の意を表します。これから3年間、引き続き宜しくお願い致します。



学術研究・産学官連携推進機構長
中村宗一郎

▶01 機構長ご挨拶

- p01 ▶01 機構長ご挨拶
- ▶02 「信州大学発ベンチャー」称号記授与式を開催
- ▶03 OVIC開所式を開催
- p02 ▶04 高森町と包括的な連携協定を締結
- ▶05 新任者ご挨拶



第1回認定の信州大学発ベンチャー

▶02 「信州大学発ベンチャー」称号記授与式を開催

信州大学では、平成29年10月に知的財産・ベンチャー支援室ベンチャー支援グループを立ち上げ、大学の研究成果をもとにした、大学発ベンチャーの創出や成長を支援しています。平成30年3月には「国立大学法人信州大学における大学発ベンチャーの認定に関する規程」を制定し、この度、所定の要件を満たした10社に対して、第1回目となる「信州大学発ベンチャー」の認定を行いました。

今後、認定した信州大学発ベンチャーには、「信州大学オープンベンチャー・イノベーションセンター(OVIC)」を学内料金にて貸与するほか、OVICをはじめとしたインキュベーション施設内での商業登記、事業計画策定の支援や金融機関・ベンチャーキャピタルとのマッチング、展示会への出展、大学広報誌への掲載によるPR活動等の支援を行います。

知的財産・ベンチャー支援室ベンチャー支援グループでは、これらの支援を通じて、信州大学発ベンチャーの成長を後押しし、本学の研究成果の社会実装を進めて参ります。

URA室 准教授 角田哲啓

- p03 ▶06 2018年度上半期イベント報告
信州型地域イノベーション・エコシステム公開シンポジウム兼研究会
地域防災減災センター「電波キャッチ」
生体埋込型・装着型デバイス開発基盤の創出(OPERA)シンポジウム
第5回信州大学見本市
平成30年度放送公開講座
信州ベンチャーコンテスト2018
- p04 ▶07 海外サテライトオフィス 仏・リール大学
- ▶08 お知らせ
輸出監理室より
国際学術交流室より
研究コンプライアンス室より



テープカットの様子/左から下坂織維学部長、中村理事(研究・産学連携担当、当センター長)、松尾文部科学省大臣官房審議官(現科学技術・学術政策局長)、濱田学長、太田副知事、土屋市長、柳澤上田商工会議所会頭、山田理事(総務・環境施設担当)

▶03 文部科学省地域科学技術実証拠点整備事業 信州大学オープンベンチャー・イノベーションセンター(OVIC)開所式を開催

平成30年6月19日、上田キャンパスにてOVICの開所式が挙行されました。OVICは、長野県との共同提案により当事業に採択され、本年4月より稼働を開始しました。式典では、濱田州博学長、太田寛長野県副知事、中村宗一郎理事、下坂織維学部長、ご来賓より松尾泰樹文部科学省大臣官房審議官(当時)、土屋陽一上田市長の挨拶があり、センターを核とする産学官連携の推進に向けて、決意と期待が表明されました。また、入居するベンチャー企業等の事業紹介や、製品展示および施設内覧会が実施され、列席者や報道関係者の関心を集めました。各所からのご来賓をはじめ、学内外の関係者総勢100名以上の列席があり、盛況な開所式となりました。

産学官地域連携課 係員 松澤哲

▶04 高森町と包括的な連携協定を締結

平成30年8月27日、信州大学と長野県高森町は、包括的な連携協定を締結しました。長野県高森町は、冬の風物詩である干し柿の中でもトップブランドとなる「市田柿」発祥の地として知られる町です。

信州大学は、平成11年度から高森町の乳幼児健診に小児科医を派遣、平成28年度のICTを活用した教員養成や新学習指導要領に向けた事業連携の指導などを行ってきました。

平成29年度には、全国9番目となる地域人材育成の場「信州たかもり熱中小学校」の開設が決まり、教頭就任依頼並びに教員派遣の打合せを実施する中で、学術研究院（総合人間科学系）林靖人准教授が就任することになりました。



信州大学演田州博学長と高森町壬生照玄町長

現在、熱中小学校事業をきっかけに、高森町では、地方創生のための人材育成、地域文化や地域産業を活用する機運が高まりつつあります。今後、高森町を一つのフィールドとして様々な地域活性化事業が展開されることを鑑み、文化、教育、学術、産業振興、人材育成、保安、保健及び環境保全等の分野において、部局横断的に研究・教育活動と連携できるよう包括連携協定を締結することとなりました。

今後は、本包括連携協定を活用した事業を展開することで、様々な行政課題の解決や新たな地方創生事業が創造されていくことが期待されます。また、高森町との連携協定をきっかけに、飯伊地域の他の自治体と本学との連携事業の活性化、新たな連携事業も広がっていくことが期待されます。



信州たかもり熱中小学校第1期修了式の様子

産学官地域連携課 主査 山崎守雄

▶05 新任者ご挨拶



URA室(理学部・医学部保健学科) 准教授 市田秀樹

本年9月に着任し、理学部、医学部保健学科、全学教育機構（理系）の担当として、松本キャンパスに勤務しております。これまで、産学連携や地域連携を中心とした教育研究活動を行い、アイデア創出やものづくりをベースにしたアントレプレナー教育を中心に、研究では、超短パルスレーザーを用いた物性物理の分野で研究を行ってきました。前職では大学COO事業にも関わり、その活動の中でエ×看×芸の分野が連携した市民参画型のワークショップを行い、集合知を活用しながらの新しいアイデアの創出や、その場から大学の研究活動で取り組むべき内容を見出すことなどにも挑戦してきました。これまでの経験を活かしながら、信州大学が魅力のある大学であるよう、尽力して参りたいと思っておりますので、ご指導とご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

大阪市立大学大学院修了、博士（工学）



URA室（人文学部・経法学部） 助教 小林溪太

今年の10月より着任し、URA（文系）として松本キャンパスにて勤務しております。これまででは学校教員として技術・情報を専門に教師を務めながら、営業・広報活動、ICT教育推進に携わってきました。また、研究では教育工学を専門にコミュニケーションロボットを教育に活用する方法を検討したり、「社会とつながる教育」をテーマに産学連携を通して学校教育が社会の中でどのように役立っているのかを子どもたちに伝える活動をしてきました。これから人文学部、経法学部、全学教育機構（文系）といった文系学部の担当として研究支援を行っていきます。地元である長野の信州大学で働けることを誇りに思いながら真摯に努めて参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

長野県飯田市出身 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科修了

平成30年度上半期イベント報告

地域イノベーション・エコシステム 第1回公開シンポジウム兼信州イノベーション・エコシステム研究会を開催

平成30年6月19日、上田キャンパスにて信州大学と長野県共催の「革新的無機結晶材料技術の産業実装による信州型地域イノベーション・エコシステム」第1回公開シンポジウム兼信州イノベーション・エコシステム研究会を開催、多くの企業や行政の方にご参加いただきました。信州大学長、長野県副知事の開会あいさつ、ご来賓あいさつに続き、結晶材料育成技術「フラックス法」の産業展開等について紹介、さらに三菱ケミカル(株)の瀬戸山亨氏、トヨタ自動車(株)射場英紀氏をお招きし大学の材料科学等へのご期待をご講演いただきました。

URA室 准教授 土井達也

臨時災害放送局を利用した「第2回自作ラジオでFM電波キャッチ」開催

平成30年8月18日(土) 松本城公園周辺を会場とし、連日続いた猛暑も一時的に和らいだ絶好のフィールド日和の中で「電波キャッチ」が開催されました。(当日の様子はセンチターホームページを参照ください) 昨年度は松本キャンパス内という閉鎖空間で行われましたが、今回は松本市中心部の市街地での開催ということで、より現実的に即した防災について意識してもらうことにつながったかと思えます。

臨時災害放送局を利用したこのようなイベントは、全国初の試みであり、8月に盛岡市で開催された国際防災・危機管理研究岩手会議にて発表を行いました。

地域防災減災センター 研究支援推進員 横山俊一

埋込型・装着型デバイス共創コンソーシアム第1回シンポジウムを開催

平成30年9月7日に、まつもと市民芸術館にて「埋込型・装着型デバイス共創コンソーシアム」第1回シンポジウム(日本の医療機器開発を加速する国家プロジェクトの始動)を開催しました。医療機器開発等に関わる企業・研究機関に向けて、本コンソーシアムで実現を目指す生理学的データ統合システムの紹介と産学共同研究10課題のうち、人工内耳、人工補助心臓など4課題の研究報告をしました。また、(独)医薬品医療機器総合機構 医療機器審査第一部長 高江慎一氏より、「イノベーションの実現に必要なこと」と適切な評価と開発迅速化のための環境整備の視点から」と題して基調講演を頂きました。県内外の医療機器及び医療機器に関心のある企業始め、約120名の方に来場頂きました。今後もシンポジウムを継続開催し、本コンソーシアムの拡大を図って参ります。



URA室 准教授 鳥山香織

シンポジウムの様子
齋藤直人領域統括によるプロジェクト紹介

第5回信州大学見本市 in 軽井沢 知の森総合展2018

平成30年9月15日(土)、「第5回信州大学見本市 in 軽井沢」知の森総合展2018を軽井沢プリンスホテルウエストにおいて開催しました。

信州大学の研究シーズや研究成果を広く企業や自治体に発信し、産学官連携を推進するための展示会です。これまで、キャンパス名称地域(長野市、松本市、上田市、伊那市)で開催してきましたが、今年は社会基盤研究センター軽井沢オフィスが開設された軽井沢町にて開催となりました。

今回は7カテゴリー、計27ブースの出展のほか産学官連携を考えるシンポジウムも行い、約160名の方にご来場いただきました。

今後も長野県の様々な地域で信州大学の活動を知っていただき、活動の幅を広げたいと思います。最後に、見本市へ出展いただいた方々、実行委員の方々に、この場をお借りし感謝申し上げます。



知の森総合展示会の様子



シンポジウムの様子

産学官地域連携課 主査 山崎守雄

20回目の放送公開講座は、ローカルイノベーション!

信州大学の創立50周年を機にスタートした放送公開講座も、今年で20回目となりました。今年「ローカルイノベーション」をテーマに、地域が抱える課題に対して従来と異なる新たな手段での解決にチャレンジしている研究や活動を取り上げました。SBCアナウンサーと共に現役信大生がリポーターを務め、文理を問わず様々な現場を訪れ、信大の研究者や学生が地域の方と歩む姿を追いかける番組に仕上がっています。残念ながら放送は終了してしまいましたが、信大公式のYouTubeチャンネルからも見ることが出来ますので、ぜひご覧ください。

産学官地域連携課 係員 鶴澤尚弘

あなたが創る!信州の未来! 信州ベンチャーコンテスト2018

高校生から社会人まで幅広い年齢層がビジネスプラン・アイデアを競う信州ベンチャーコンテスト2018が9月15日(土)に公立諏訪東京理科大学にて開催されました。高校生・アイデア・起業の3部門で、信州を元気にするテーマ15件の発表があり、起業に関心のある約100名が聴講しました。起業部門ではのごのお酒「シールド」と廃校の活用を結び付けた「林檎学校醸造所」のプランがグランプリの受賞と、観客の投票で選ばれるオーディエンス賞をW受賞しました。どのプランも地域資源の魅力を活かしている素晴らしい発表でした。

URA室 講師 中西弘充

各種イベントの告知はWebサイトにて随時行っております!
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suirlo/>



海外サテライトオフィス 仏・リール大学

信州大学とフランスのリール大学は、平成26年2月の大学間学術交流協定締結以来、進化計算、計算知能分野を中心とした国際共同研究と人材育成に取り組んできました。平成29年7月、リール大学内に、本学2拠点目の海外サテライトオフィス「国際連携ラボ (LIA-MODO)」を設置、翌年7月、工学部キャンパス内に、アジア初の拠点「リール大学サテライトオフィス「信州大学」」を設置し、国際学術交流の一層の活性化を図っています。

リール大学サテライトオフィス開設式には、両大学関係者に加え、在日仏大使館やフランス国立科学センター・東京事務所からの参加もあり、同日行われた国際連携ラボ主催の国際ワークショップ (CI-MO2018) には8か国から研究者が集いました。

国際連携ラボ「LIA-MODO」は、International Associated Laboratory on Massive Optimization の略で、DOは柔道、茶道などの「道」に由来します。進化計算、人工知能、IoTなどスマート社会の実現に欠かせない技術を扱う計算知能分野の「道」を究め、両大学の交流が一層加速していくことが期待されます。



左から信州大学演田州博学長、リール大学 Francois-Olivier SEYS 副学長

国際学術交流室 係員 今西暢子



輸出監視室より 「STCabc」

お知らせ

#1 「対象となる貨物」

信州大学で教え、研究し、学び、働く構成員の皆様には、安全保障貿易管理制度 (単に「輸出管理」といわれています。) に取り組んでいただいています。対象となるのは、形ある物 (法律で「貨物」といいます。) を国境を越えて送ったり持ち出したりする時と、教育や指導に用いられる、物の設計・製造・使用に関する技術 (ソフトウェアも含まれます。) を外国で或いは非居住者に対して提供する時です。

我が国では、武器や大量破壊兵器に用いられる恐れを規制するリスト規制と、リスト規制以外でも懸念を包括的に規制しようとするキャッチオール規制が行われています。信州大学では、我が国の法律を遵守するため安全保障輸出管理規程を整備して輸出管理に取り組んでいます。他大学等はそれぞれの実態に応じて独自にその手続きを定めていますので、統一された書式や手法ではありません。

第1回の今回は、規制の「対象となる貨物」について解説いたします。形ある物 (貨物) を国境を越えて送ったり持ち出したりしようとする場合が規制の対象となります。実際には「食料品、木材・皮革・紙製品の一部」以外の全ての形ある物は、何らかの規制の対象になっています。適宜必要な輸出管理の手続きが必要となります。ただし、一般に市販されている民生品を個人使用のために外国へ持ち出し、個人で使用後はそのまま持ち帰る場合には、規制の対象外として取り扱っています。特に気をつけていただきたいのは、学術研究のために大学で使用している研究資材に対象外はありませんので、確実に輸出管理の手続きを実施するようにお願いします。

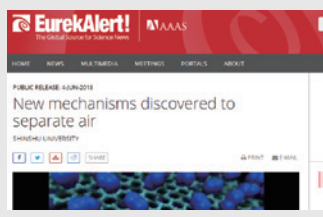
輸出監視室 室長 大澤純夫

#08

国際学術交流室より

「EurekAlert!」研究成果の海外発信

EurekAlert! は、科学雑誌「Science」の出版社 A A S (アメリカ科学振興協会) が運営するオンラインニュースサービスです。大学など研究機関が研究成果等のニュースを配信し、読者登録している世界中の科学記者が記事にしたり、Twitter や Facebook 等 SNS に連動するなど、情報の拡散が期待できます。本学では、有力 Journal 誌に掲載の最新の論文を対象として、平成30年1月から先鋭領域融合研究群を中心に利用しています。研究成果ご発表の際は、EurekAlert! の海外発信についてもご検討ください。



参考: <http://www.eurekaalert.org/> にて「shinshu university」で検索

国際学術交流室 係員 今西暢子

研究コンプライアンス室より

ウェブサイトを「研究活動・研究費等の不正防止」のご紹介

研究不正防止に関する取組を紹介するウェブサイトをリニューアルしました。研究倫理ハンドブック、研究費の不正使用防止ハンドブック、研究費執行ハンドブック、研究倫理教育やコンプライアンス教育、研究倫理eラーニングプログラム「APRIN (旧CITI Japan)」、剽窃チェック支援ツール「[Thenticate]」、研究データ保存等に関するガイドライン、関係規程や通知、相談窓口、通報窓口など、研究不正防止に関する様々な情報と様式を掲載しています。是非ご利用ください。

URL: <https://www.shinshu-u.ac.jp/hq/research-integrity/>

研究支援課 主査 鳴澤孝

信州大学 学術研究・産学官連携推進機構【サイロ】

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 CSMIT 内
TEL:0263-37-2091 FAX:0263-37-3049
WEB サイト: <http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suirlo>



信州大学創立70周年 旧制松本高等学校100周年記念事業

2019年、信州大学は創立70周年、旧制松本高等学校は100周年の節目を迎え6月1日の記念式典他、多彩な記念事業を計画しています。ご期待ください。